

米国の石油コークス事情



代替天然ガスの原料に石油コークスを

これからは雇用創出の時流に乗って

米国の投資会社 Leucadia National の子会社 Lake Charles Cogeneration が 2 年前から、ルイジアナ州レイクチャールズの港湾地域に石油コークスのガス化設備を建設する準備を進めています。

このベンチャー企業は、「メキシコ湾岸地域の製油所の石油コークスを購入し、GE Energy のガス化技術を使用して代替天然ガス(SNG)を製造」(2008 年 11 月 20 日、Gas Daily)しようとしています。

同社は、「既に用地を確保し、環境規制もクリアしており、計画どおりなら 2012 年に運転を開始できる」(2009 年 3 月 2 日、New Orleans CityBusiness)としていました。

製造される SNG は、素性を除けば天然ガスと同じもので、既存の天然ガスのパイプラインに送り込まれ、電力数社がこれを購入し、ガス火力発電に使用するはずでした。

このガス化設備が現実味を帯びたのは昨年です。
当時の天然ガスの価格は現在の 3 倍でした。

しかし今は、「天然ガスが SNG より安価になり、SNG の購入を検討してきた電力 4 社はもはや関心を失い、売買の交渉は決裂の状態」(2009 年 3 月 12 日、Associated Press Newswires)です。

天然ガスの価格高騰対策としての SNG の役割は終わったようです。

エネルギー大手が

世界最大の石炭会社 Peabody Energy(本拠地:ミズーリ州セントルイス)と ConocoPhillips が合併で、ケンタッキー州ミューレンバーグ郡に、石炭および石油コークスから SNG を製造する設備を建設する計画で、昨年 12 月に当局に建設許可を申請しています。

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2009年 3 月 21 日)

両社は、「2007 年に SNG の共同事業の検討を開始して」(2007 年 7 月 24 日、The Energy Daily)います。

Peabody は、同じミューレンバーグ郡に石炭火力発電所を新設することを断念して SNG 製造設備に方向転換しました。

輸入に頼らない国産の天然ガスの販売を目指します。

同社は、「総合的に判断して SNG が最良と信じる。一般家庭用(主に暖房に使用)、産業用および発電用などの市場があり、需要増は続くと信じている」(2008 年 12 月 22 日、Electric Utility Week)としています。

話は別ですが、ConocoPhillips はテキサス州にある同社の Sweeny 製油所に、石油コークスのガス化設備を建設する予定です。

「ガス化複合発電(IGCC)設備または SNG 製造設備のどちらに組み合わせるか検討中」(2008 年 10 月 15 日、Gasification News)と報じられていますが、SNG に傾いていると思います。

ひとこと

「現在の天然ガスの価格では公的な支援が必要なはず」(2009 年 1 月 7 日、Gasification News)です。

今、SNG は雇用創出の役割が期待されています。
関係する州はすでに支援に動いています。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)